

私自身、広島に行ったことはなく、なかなか普段の生活で平和に関する話をしようと思っても私の知識不足や、きっかけ作りが難しく、できませんでした。ですので、下手な私の説明よりも実際に広島に行って、何か子供たち（中学生、小学生）自身を感じ取れるものがあれば、何か平和について考えるきっかけになれば、と応募しました。

一日目、広島に到着後、初めて原爆ドーム、元安川の前を通ったとき、約80年前、悲惨な現場となった所かぁ、と感慨深くなりました。今の原爆ドームの周囲の様子からは微塵も感じられなかったからです。

その後、平和記念資料館を見学しました。

建物の鉄骨骨組みが爆風、熱で歪んだり、もともとの方向からずれてしまったり、インク工場をされていた場所からは50個ほどの小瓶がくっついて変形していたり、原子爆弾のすさまじい威力を感じました。

原子爆弾が投下された後、自宅に戻って来ない家族を探しに行った話、見つかったが、やけどやガラス片が刺さる大けがをされたり、また、放射線の影響で下痢嘔吐その他さまざまな症状で亡くなっていった方々の話をたくさん見聞きしました。

戦時中で、今の暮らしとは比べものにはならないでしょうが、その当時の広島のごく一般的な穏やかな日常生活を一変させた原子爆弾の恐ろしさ、怖さなどを感じました。

被爆時に着用し、破れて血がついた衣服などを拝見し、ご遺族にとって大事なもののなのに、後世に伝えたいということで寄付して下さった方々、また、適切に保管されていることに心をうたれました。

被爆直後の人間の皮膚が垂れ下がった様子など絵での展示もありました。実際に目にしたくない光景もありました。二度とこんなことがあってはならないと強く感じました。

命がつながった方々でも、やはり後に後遺症があり、仕事をしなければならなくても、体調が優れない、仕事にいけない体力ではない、自死しようとしたが出来なかった（記憶違いでしたら申し訳ございません）など、原爆はその時だけの影響でなく、後々の生活も大きく狂わせてしまうものだと心に刻みました。

2日目の映画にもありましたが、原爆に対し、「父を返せ、母を返せ、、、私に関わる全てのものを返せ！」だと思いました。

### 被爆者のお話

初めて被爆者の方からお話を伺いました。

2歳の時に被爆されて、戦争孤児となり、戦後、今では考えられないほど、多くの苦勞をされており、私の悩みなんてちっぽけなものだ、と考えさせられました。

その中で、被爆者であることを隠して生活しているひとがいたり、被爆者手帳交付を自ら見送って生活してきた方がいる、という事実があることに非常に驚きました。誰も、好き好んで被爆したわけでもないのに、その当時広島にいた人は少なからず原爆の影響・被害を被ったのだから、原爆や戦争に対して「助け合い」に似た気持ちでいるとばかり思っていました。

翌日見た映画にも出てきましたが、被爆者2世ならではの苦労、悩み、就職や結婚などの差別にもつながってくるのか、と人間の愚かさを感じました。この点は今後もう少し詳しく知りたいと思いました。

## 碑めぐり

ボランティアガイドさんのお話で、原爆の破壊威力の説明がありました。破壊力のうち、主なものから並べると、半分は爆風、その次に熱、その次に放射線とのことでした。強さや熱を詳細な数字でお話されましたが、いずれも想像を絶するものでした。原爆供養塔の中には被爆直後に火葬された遺骨が納められているとのこと。原爆さえなければ、この方たちも悔いなく一生を終えられたらろうに、という思いでした。

## 2日目

### おかあさんの被爆ピアノ

被爆ピアノとは、その名の通り、被爆したピアノですが、非常に感情が引き込まれた映画でした。近く就職結婚をするであろう女子大学生とその家族、女子大学生の母方の祖母のピアノの話です。

被爆3世という立場だが、物心つくころから母親が広島に連れて行かれなかった為、広島のことをあまり知らず、おばあちゃんの被爆ピアノが寄贈されたことをきっかけに、広島のことを知りたくなった女子大学生の気持ち、被爆2世として育ち、兄を白血病で亡くすなど苦労したが故にそんなつらかった経験を話したくない母親の気持ち、被爆2世として育った妻のことを知りたいが断られてしまう父親。

いずれの方の気持ちも手に取るようにわかり、いい意味で歯がゆかったです。

追悼式典(?)本番で、女子大学生は緊張のあまり、うまく弾けず、お母さんが一緒に弾いて、本番を終え、お母さんが女子大学生にお辞儀を促していたものの、、映画題名の「おかあさん」は誰なのか、という疑問が沸きました。

ピアノという楽器の特性上、もともとはお祖母ちゃんのピアノであったが、お母さんも習い、弾いていたということで、おばあちゃんのピアノであり、おかあさんのピアノだったんでしょうね。

おかあさんも娘さんが広島のことやお祖母ちゃんのことを知りたがってくれて、ピアノに興味を持ってくれて、ほっとしているのだと思います。もちろん、おばあちゃんのピアノを再度弾くことができているのだと思いました。

今までは広島のことをきちんと知ってからでないと、何もできないと思いがちでした。しかし、映画のなかで矢川さんが言っていたとおり、とりあえずやってみれば、始めてみればいいのじゃないか？とおっしゃっていて、まさにその通りだと思いました。

作成が5年前ということで、(ありえないですが、)私自身が母になる前に見ていてもこの感情は生まれなかったと思います。

同行した長女(中3)も鑑賞しておりましたが、何十年かしたら、また感じ方も異なってくると思います。時期を改めて再度観てほしい映画だと思いました。

### おりづるタワー

虹のひろば、へは自由参加ということで、おりづるタワーへ向かいました。

おりづるは平和の象徴で、館内で提供された折り紙に願いを込めておりづるにしました。

平和願う気持ちはもちろん大切ですが、そう願わなくても「平和」が当たり前である世界になるといいな、と思います。

### 帰宅してから

8月6日午前8時15分、私は二女を学童保育に連れていく道中でした。

80年前の8月6日も、広島市民の方にとって、何気ないいつもの朝だったはずです。

何気ない日常が突然奪われた80年前を思い描き、戦争や原爆はもういけない、と心に誓いました。

長くなりましたが、個人で行っていたら、被爆者のお話を伺うこと、ボランティアのかたにお話しいただきながら碑めぐりすること、被爆ピアノの映画を鑑賞することはできませんでした。

また、普段の私たちの生活がいかに平和であるかを感じ、原爆、戦争のことを学ぶ機会をいただきました。

今後、長崎や沖縄にも赴き、学びを深めていきたいと思います。

最後に、企画に携わってくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

顔合わせから新幹線を降りる時まで、私たちのことをいつも気にかけてくださり、有難かったです。

### 原爆博物館

広島原爆資料館を訪れてわたしは、言葉を失うほどの衝撃を受けました。行く前に YouTube など終わった後歩けなくなるほどになると言うようなものを見ましたが、本当にその通りだと思います。焼け残った時計や被爆者の人が来ていた服、小物、最初の方にあったキノコ雲の写真パネル、全て 80 年前に先祖のような人たちが日常的に使っていたと考えると自分がまだ世界を知れていないということによく気づきました。これからたくさんの方が小学校や中学校で、この戦争について学ぶと思いますが先生などから話されたことで覚えることよりも本物を見て実感してもらいたいと思います。わたしの学校では英語の教科書では広島原爆資料館のことで佐々木禎子さんのことが書かれていたり、国語の教科書でも会社によってはそのような物語や説明文を取り扱っています。これからも戦争に興味をもって、2 度と起こしてはいけないと言うことを考えこれからもたくさんの教科書で使って欲しいなと思いました。

### 被爆者の証言

わたしは人生で初めて戦争の近くにいた人に証言を聞きました。原爆が落とされ、戦争が終わった 2 年後に生まれた時いた時は証言者のお母様は相当苦労したのかなと思います。1945 年より前に生まれた人は原爆や空襲のことを、また、1945 年より後に生まれた人にはその後の体験を聞いてくださいと言うことに原爆で体験したことその後の生活が同じぐらい大変だったということだと思いと相当だったんだなと思いと自分の曾祖母や曾祖父に感謝したいと思いました。また、早く憲法 25 条の「全ての国民は健康で文化的な最低限度を営む権利」が全ての国民に通用すればいいと思います。今この中で戦争体験を喋れる人は少なくなっていると思うので早くみんなが興味を持ってくれたら本当の戦争や核兵器がない世界が作れるのではないかと思います。

### 碑めぐり

#### 1 原爆供養塔

広島原爆によって亡くなった人約 14 万人だと言われていますがその中でも行き手のない人の遺骨が約 7 万人いると思うと、家族みんなで亡くなったり、兵士としてきていたりそれぞれ理由があると思いますが、今となってはその当時にどれだけ混乱していたと言うことがわかるような気がします。

#### 2 韓国人原爆犠牲者慰霊碑

亀の方向が韓国のソウルの方向をちゃんと向いているところに日本の優しさを感じました。

### 3 原爆の子の像

思ったより迫力がありました

千羽鶴の量がすごくてたくさんの人がそれぞれの思いを込めて折ってると思うとたくさんの方が平和を願っていて今戦争が起こってる国も見たいなと思いました。

### 4 原爆死亡者慰霊碑

原爆ドームから原爆死亡者慰霊碑、資料館まで一列になっているとしり、80年前にここが焼け野原になったことが信じられなくなりました。

2025 ピースアクション in ヒロシマに参加して

U.M さん (7 歳)

うまく文章にできないようなので、話していた内容をまとめて感想文とさせていただきます。

平和記念資料館で、いつもどおりの生活を送っていた伸ちゃんの三輪車をみて、原爆によって死んでしまったことにショックを受けている様子でした。

たった一発の原子爆弾でたくさんの方が死に、さらに多くの人々が苦しめられていることにショックを受けたようです。

同じような戦争が世界あちこちで起こりそうなので、心をあわせて平和に向かうことが大事だね、と話していました。

広島から帰ってきてからも、ニュースで広島の前爆ドームの話が出るたび、行ったところだね、と話していました。

普段の生活であまり戦争や平和の話をするのは難しく、ピンと来なかったのかもしれませんが、何となくでも頭の片隅に戦争、広島の前爆のことが残っていれば、と感じています。

(O. Aさん)

この度は、このような企画に参加させて頂きありがとうございました。  
広島に行く前と後の2日間でどう変わるのか想像できませんでした。初めて広島へ訪れ戦争や原爆の恐ろしさを目で観て肌で感じて、被爆者の悲痛な声を耳で聴き、改めて「戦争」とどう向き合ってきたら...と自分に問いかけていました。

原爆ドームを目にした瞬間「ハッ」として胸が締め付けられました。  
平和資料館ではリニューアル前行った事がある知人に聞く限りでは、生々しいと伺ったり、見終わった後の表情が陰しくなるイメージがあったので、私も正気でいられるのか...と心して入りましたが、リニューアルされた事もあり、被爆者一人一人の悲痛な想いに胸が締め付けられる思いでしたが、音声ガイドでわかりやすく観ることができ、とても勉強になりました。

その後、被爆者の証言を聴き、戦後80年経った今でも思い出したくもない話を、言葉をつまらせ...涙ながらにどんな想いだろうかと胸が張り裂けそうでした。紙面では伝わりきれないお話が聴けた事、本当に申し訳なくも又本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

平和記念公園の碑めぐりではガイドさんに、とてもわかりやすく教えて頂いたので本当に勉強になりました。ガイドさんとはこれでもう終わりなのか...と別れる際には、何だかとても寂しい気分になりました。

「お母さんの被爆ピアノ」の上映会では被爆者2世、3世の苦しみと戦っている方が今も尚、沢山の事に痛感しました。虹の広場に参加する為に広島グリーンアリーナに行く際、道案内をしてくれた方に「映画はどうでしたか？」と聞かれ、「重いです」としか言えず、聞かれて言葉に詰まり...「私も3世なんです...」と言われ、その後も何を言ったら良いのか分からず心に寄り添う言葉が出てきませんでした。

「虹のひろば」では展示してある物や各団体の方々の活動を、ゆっくりとは観て聴く事ができず色々な催し物にも協力できなかったのが残念でした。  
又、2日間を通して碑めぐりの際、ガイドさんの話を聴くのが必死だっただけに一つ一つの慰霊碑に手を合わせる事が出来ず、最後の慰霊碑にだけしかできなかったのが、ただただ心残りで申し訳ない気持ちでした。

この2日間は私の人生でとても大事な2日間になりました。私にとって広島は観光する場所ではない。人間が幸せに生きる為の原点の場所だと思います。日本人としてどんな形であれ後世に伝えて行ける権利がある。一緒に行った五年生の娘にはまだ少し難しい所もあるようでしたが、やはり目で観て肌で感じた2日間は、とても重要な体験だったと思います。  
そして、私にできる...私にしかできないやり方で1日も早く世界の平和を実現できるように発信して行きたいと思います。

パルシステムのスタッフの皆さんとは、楽しく過ごせて嬉しかったです。  
2日間お世話になりました。また機会がありましたら宜しく願い致します。

(O. Tさん 10歳)  
ピースアクション広島に参加して

平和資料館に行って被爆した人や焼けた三輪車や真っ黒になった人やボロボロになった服。  
ガラスの破片が刺さった壁とかを見て、とても心が痛くなりました。

原爆ドームを観て爆心地から近いのに建物があんなに残ってすごいと思いました。  
ガイドさんのお話を聞いていた時計台から爆心地までの距離で想像したら、とても怖くなりました。

被爆者のお話や映画は少し難しくてわからない部分もありました。  
広島に来る前から戦争はいけない事だとはわかっていたけど、  
広島に来て、もっともっと戦争は絶対にしてはいけない事だと思いました。

私は絵画を習っていて、絵を描くことが好きなので、色々な人達に伝えていきたいです。

(S.M さん)

私は今回のピースアクションに参加して、「平和」とは当たり前の日常ではなく、絶えず守り続ける努力が必要だということを学びました。2025年、原爆投下から80年という大きな節目を迎えましたが、残念ながら世界で今現在も戦争している国々があり、それでも実際私が普段の生活で考えることの少ない「平和」について、重く深く向き合う貴重な時間となりました。

一発の原爆が一瞬にして多くの尊い命を奪ったこと、その後の人々の人生を大きく変えてしまったことをボランティア解説員の方や語り部の方のお話を聞き、すぐ近くで起こった他人事ではない出来事として身近に感じることができました。平和記念資料館では原爆の被害の大きさとその悲惨さ、一つひとつの展示に込められた被爆者の生々しい思いに触れて、とても恐怖を感じ言葉を失いました。それは単なる「歴史」ではなく、今でもずっと続いている「人々と物の記憶」であり、広島でこのような戦争の記憶継承がなされていることを、まだ訪れたことがない日本と世界のたくさんの人々にも広く知ってもらいたいです。数多くの外国人訪問客も目の当たりにし、平和を願う気持ちは国や文化を超えて共有できるのだと実感しました。世界中の人々に平和の尊さを伝える「平和な世界を目指す象徴」である広島に自分の娘と訪れられて、本当に良い経験になりました。映画「おかあさんの被爆ピアノ」を鑑賞し、祖母から母、娘へと次世代に伝承していくことの大切さを娘（うちもピアノを習い続けています）と共有できた素敵な時間でした。

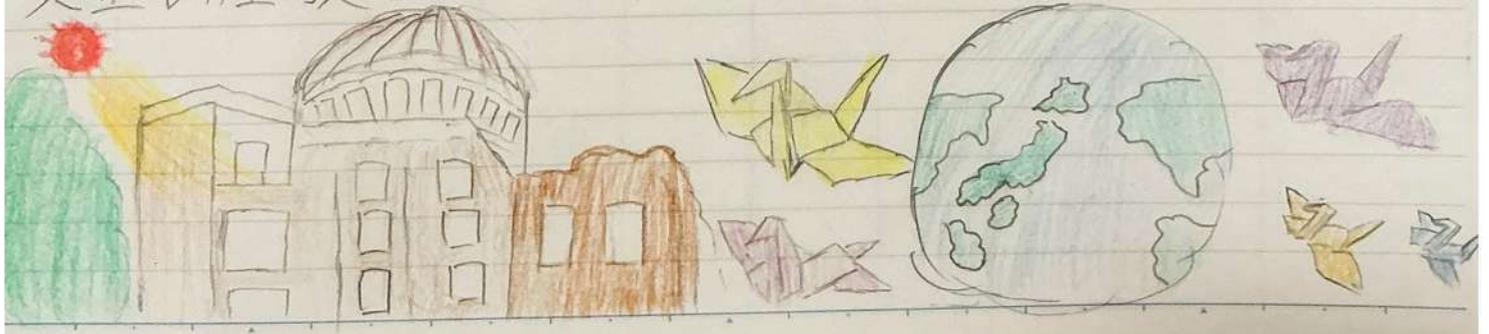
今年8月15日の追悼式で、天皇陛下はこう仰いました。『戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います』

今や国民の9割近くが戦争を知らない世代となりましたが、風化させないように、そして戦争のない世界の実現に向け、自分たち一人ひとりが何ができるのか考え、行動していくことで、少しずつ周りの未来を良い方向に変えていく、そんな社会になっていければと思っています。

2025. 4/5 ピースアクション in Hiroshima

私は前に一度広島に行った事はありませんが、今回は平和の勉強として行ったので「楽しい」だけではなかったのが前回と違う点でした。初めて原爆ドームを見た時は、原爆の影響を受けてしまってレンガなどが崩れていても、立派に建っている姿に心を打たれました。そして当時原爆の被害を思い出したくないという理由で大人は撤去したいと思うのにも関わらず、子供達の、このことを沢山の人に伝えなければ「ならない」という思いで今も建ち続けているのだと考えると、このドームには様々な人の思いが溢れていると気付きました。私なら「残す」という選択は出来なかったと思います。なので、子供達の思いを持ち、大人の子供達の思いを応援したり出来るような人になりたいです。資料館では情報の量に驚きました。大勢の方が亡くなってしまい心が苦しくなりました。原爆がもたらす影響の怖さを改めて思い知りました。一番印象に残った方は、佐々木禎子さんです。禎子さんが折り鶴に込めた思いは、他の方々に届いていると思います。私も禎子さんのように自分に出来る事を日々考え、行っていきたいです。平和の鐘の音は心に響きました。国境がなく、世界平和を願っている事を知り、本当にそうならいいのに、と思うばかりでした。山田寿美子さんの言葉を聞いて、辛いはずなのにそれでも私達に伝えようという強い意志を感じる事が出来ました。夜ご飯で食べたお好み焼は原爆の被害に遭われた方々も食べていた味を五感で楽しみました。今回広島に行って一番思った事はこんなに素敵な街なのに原爆を落とすなんて「許せなしい!!」という事です。被爆された方々の心の時間は、1945年8月6日8時15分で止まったままだと思います。私はその止まった針をまた動かせるように、努力を続けていきたいです。また活気が戻り、にぎやかになってすごく嬉しくなり、勇気をもらいました。残念ながら世界から戦争や核がなくなるのはまだ先の事でしょう。その日が1日でも早く、そして平和の灯が消えるように、これから平和について自分に問い続け、考えていきたいです。

貴重な経験をさせて頂き ありがとうございます。



S.Eさん (12歳)

S.A さん

まず はじめに、職員の皆様の頼りある引率のおかげで安全に広島を訪問することができました。暑い中親子共々お世話になり、ありがとうございました。

私は幼い頃に戦争のアニメを見て以来ずっと、戦争は怖い、戦争はいけないとだけ漠然と思ってきました。戦争を経験せず大人になれたことは幸せなことだと思っています。けれど、現在も世界では戦争が絶えず、核の脅威も未だ戦争の有効な切り札となっています。私は今の日本を取り巻く国際情勢の緊迫、日本の法改正案や軍事力の増強、日本も核を持つべきとの声もあり、日本が再び戦争に巻き込まれてしまうのではないかと不安を感じています。子供達の世代も、その次の世代もずっと平和な世の中であってほしいのです。その思いを次世代に繋ぐには、子供達も戦争がどんなに悲惨で起こってはいけないことか伝えたい。戦争の最終手段として原爆が投下された地で何が起きたのか。私自身も子供も、図書館やインターネットの情報だけでなく直接現地に行って見聞きすることに意義があると感じ、今回の企画に参加しました。

広島に着いて最初に訪れた広島平和記念資料館では早速、原爆被害のリアルを突きつけられました。実際の遺品や遺物などの展示も多く、原爆の与えた衝撃がまざまざと伝わりました。自分もまるで原爆が投下されたその日にタイムスリップしたようで冷や汗が出て動悸がしました。写真展示では一枚の写真から目が離せなくなっていました。自分の子どもとそっくりな少女が包帯を巻かれ、うつろな目でもう長くはないであろう様子の写真でした。他人のこととは思えず涙が溢れてきて、理屈抜きに戦争は嫌だと感じました。館内は海外の方がたくさん訪れており、人種を超えて同じ人間として涙する姿に、誰も憎むことはできず戦争が悪いと痛感しました。

原爆で両親を亡くされた山田寿美子さんの講演では、山田さんは御年 80 歳以上ですが、原爆投下後の日々は今でも涙が出るほど辛い経験だったと語っておられました。私は祖母の生前に戦争の時ことをよく尋ねたものですが、はぐらかされほとんど話してもらえなかったことがあります。なぜかと祖母に尋ねた際に、今は幸せなので戦争のことは忘れたい思い出であり、話したくない。それは他の人もそうだと思うと言われました。想像を絶する悲惨な出来事を経験した方にとっては、そのことを話す度に気持ちがその時に立ち帰り、涙が出るほど話すのも辛いことなのでしょう。当事者の口からお話していただけることはありがたいことで、山田さんの想いを真摯に受け止めなければと気が引き締まりました。私にとって一番感銘を受けたのは、山田さんが暗い幼少期を過ごし、自死を考えるほどに追い詰められても、めげずに生きて自分の使命を見つけ、社会問題の解決のために尽力されていることです。山田さんの生き方も含めて、山田さんの体験談を直にお聞きすることができたことを貴重に思いました。

原爆の被害に遭った広島市は、街が消し飛んだと思えないほど綺麗に再興し近代化されていて驚きました。それでも原爆ドームの周辺には犠牲者を悼む碑があちこちにありま

す。犠牲者の方々がしっかり刻まれた碑は、被害者を忘れないという広島の方々の意思を感じました。そしてその碑のそれぞれに悲しいエピソードがあることをガイドさんからお聞きし、原爆の罪深さを改めて思い知らされました。原爆死没者慰霊碑には「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と刻まれており、私もその思いを一にしました。

今回ピースアクション in 広島に参加してみて、戦争はしてはならないものだという気持ちはより強くなりました。原爆投下から80年という月日が経ち、今後原爆被爆の当事者がいなくなってしまうても、原爆と戦争の記憶を風化させないことが、この境目を生きる私達の課題だと思います。今回の企画で広島を訪れたことで、私はなるべくより現地で原爆の記憶を聞いたり、見たり、触れたりすることが原爆の悲惨さをより身近なものとしてとらえ、戦争及び核戦争は絶対にいけないという意識を持ちやすいと実感しました。そのために広島、そして長崎が世界に果たせる役割は間違いなく大きいです。

日頃よりパルシステムの商品や生産者さんへの姿勢が好きでパルシステムを利用していましたが、このような平和活動の取り組みも行っているとは知りませんでした。活動に参加して、自分も平和な社会を支える一員なのだと思います。ピースアクション in 広島に参加させていただき、重ねて感謝申し上げます。

S.T さん (10 歳)

僕はピースアクション in ヒロシマに参加する前は、広島や原爆についてはどういうものか知らず、その名前ぐらいしか知りませんでした。

今回めぐった場所の中では、広島平和記念資料館が一番インパクトが強かったです。その中でも特に印象に残ったのは、展示されていた「人影の石」です。これは原爆の熱線によって石に残った人の影だそうです。僕はそれを見て、原爆の威力はすごく強いものなのだと知りました。原爆はたくさんの人の命を一瞬でうばい、もっと威力が強ければ地球そのものがなくなってしまいそうだと思います。原爆が投下された後に黒い雨が降ったと知って、環境にも良くないものだと思います。

僕は戦争にも原爆にもあったことがないので、実際に体感してみてもどうなるのかは本当にはわかりません。でも、山田寿美子さんが涙を流しながら話していたのを見て、戦争は辛く悲しいことなのだなと思いました。起こってしまったことは変えられないけれど、これから戦争や原爆について自分でももっと調べてみたりして知ってみて、これから自分にできることを探してみようと思いました。

S.Y さん (9 歳)

私は今回ピースアクション in ヒロシマに参加するまで、戦争についての話を母や学校から少し聞いたことがあるくらいで、広島に原爆が落とされたことについてもほとんど知りませんでした。

広島平和記念資料館に行ったことが今回一番印象に残りました。あまりにもたくさんの方が大けがをしたりして亡くなっていて、ひさんな光景に思わずこわくなり目を閉じてしまいました。私は爆弾を落とされたら死んでしまうと思っていたのですが、けがをして痛いのに生きているのもとても辛いことなのだと思います。今回は途中までしか見ることができなかったのですが、またもっと自分が成長したときに、もう一度広島平和記念資料館に行って見たいと思います。

私は今回広島に行って、戦争はとても怖いものだという気持ちを持ちました。私と同じ小学生の子ども達が原爆の被害にあい、たくさん亡くなっていたと知り、これから皆幸せに暮らせたかもしれないのにかわいそうだなと思いました。

私にはやりたいことや将来の夢があるので、私は原爆で亡くなったその子たちの分まで精一杯に生きようとちかいました。もうこれからは二度と戦争が起きないように、色々な国の人と仲良くすることを心がけようと思いました。

「ピースアクション in ヒロシマ」に参加して

T.H さん

「ヒロシマ」を舞台にした、この史代さんの漫画「夕凧の街・桜の国」「この世界の片隅に」を読んだのがきっかけで広島を最初に訪れたのは今から二十年ほど前のことでした。当時、平和記念資料館を訪れ、石碑を巡り、「今」と「昔」の広島に触れることができたのは平和について考える大きなきっかけになりました。

また訪れたいと思いながらその機会もなく毎日を過ごしていましたが、たまたまパルシステムさんからのお知らせで「ピースアクション in ヒロシマ」の参加者を募集していることを知りました。小学生の息子は学校で折に触れて戦争について学習しているようで、広島の話や原子爆弾の話をしたところ興味を持ち、これを機会に改めて親子で「ヒロシマ」について学びたいと思い応募することにしました。

まず参加した説明会で、生協さんは「安心・安全な食べ物は平和から」という考えに基づいて平和学習を継続的に行っているのだと知り、その思想に大変共感するものがありました。それは「金だけ・今だけ・自分だけ」というような自分本位で金儲け主義的な考えとは真逆のものであり、本当によりよい生活の実現を目指して真摯に行動していらっしゃるのだと思いました。

当日見学した平和記念資料館では、被爆前と後の街の様子やいつもの暮らしが原子爆弾によって無惨にも破壊され奪われたことをパネルや遺品などの実物を通して知ることができました。八十年前の、路面電車が走りたくさんの人々が行き交う賑やかな商店街の様子を撮したパネルの次には原型をとどめないほどに破壊された町並みを撮したパネルが並び、壁一面に大きくキノコ雲の写真がありました。今までTVや書籍などで見たことのあるものでしたが、暗い館内で巨大な写真を前にすると、まるで自分がその場にいるような衝撃に襲われました。その後が続く、この雲の下で八十年前に起きたことの数々を知るにつけて、ただただ悲惨さ、むごたらしさに圧倒され言葉も出ませんでした。

以前に展示を見た時には、原爆の恐ろしさや残虐さが強く記憶に残りましたが、今回はじっくりと展示された品々の持つ背景や寄贈に至った思いや願いにまで思いを馳せることのできる構成になっていたように思いました。

広島名産の針が束になった状態で溶けてくっついた塊、ぼろぼろに破れおびただしい血がついた衣服など原爆がもたらした甚大な被害に息をのみ、もしもこの場に自分や家族がいたらと思うと気が遠くなるような気持ちがしました。

特に痛ましく思ったのは子を亡くした親御さんたちが寄贈した子供の遺品の数々でした。中身が炭化した弁当箱からは、子供に持たせたお弁当箱を発見したときの母親の深い悲しみと慟哭が伝わってくるようでした。

次に、山田寿美子さんのお話からは、原爆は人生に影を落とし続け、消えることのない苦しみや悲しみ与え続けるものなのだということを学びました。

原爆によってご両親を亡くされ、孤児として貧しく寂しい暮らしを余儀なくされたこと、国による保証はなかったこと、何より親戚中をたらい回しにされ子供らしい生活はできなかったこと、精神的にもかなり追い込まれ絶望の中で暮らしたこと……。聞いていて胸が詰まるような体験ばかりで、幼い子供だった山田さんのつらさ、寂しさに触れ、こんな悲しい思いをする子どもをまた作り出してはならないと強く感じました。

また、山田さんはご自身もつらい境遇であるにも関わらず、被爆者の肉体的、精神的苦しみにも長らく寄り添われていらっしやっただうかがいしました。山田さんの心の強さや美しさにも心を打たれました。

そして忘れられないのが碑巡りでお世話になったHさんのことです。原爆ドームや公園内の碑について子供にもわかりやすく解説をしていただきました。シンプルでわかりやすいお話、親しみやすい穏やかな語り口の中に原爆という人間の尊厳を根こそぎ奪うような兵器に対する怒り、平和を求める強い志を感じ、お話が終わる頃には深い感動に包まれ、私も平和を作るための行動をしていかななくてはならないのだと思わせられました。平和は与えられるものではなく一人一人が求めて、作っていくものなのだと感じました。

最後に、今回「ピースアクション in ヒロシマ」に参加させていただき深い学びの機会をいただきましたこと、準備から当日まで細やかに私たち参加者を気遣ってくださいました。パルシステムご担当者様に感謝し、結びとさせていただきます。ありがとうございました。

#### T.H さん (10 歳)

僕は平和記念資料館でイヤホンガイドを使った説明を聞きました。原爆が落とされた時の悲しみが伝わってきたので改めてこれから戦争も核兵器もない時代が来ることを願っています。

「おかあさんの被爆ピアノ」を観て、とても感動しました。物語の最後おばあちゃんが弾いていた曲が流れてきてピアノが元に戻ったと思ったのでうれしくて感動しました。

「ピースアクション in ヒロシマ」に参加して

(M.Hさん)

広島での二日間は短い時間でしたが、とても充実した二日間でした。

一日目の平和記念資料館では、1945年8月6日にどれだけ恐ろしく、残酷で、悲痛なことが起きたのか、写真や被爆者の遺品、絵画を通して知ることができました。また、山田寿美子さんの被爆証言では、被爆者が戦後辛く苦しい思いをして生き続けてきたこと、被爆者差別があること、山田さんが被爆者に寄り添いながら仕事をされてきたことを知りました。碑めぐりでは、原爆ドームや原爆供養塔、原爆死没者慰霊碑などを丁寧に分かりやすく解説していただき、原爆によって多くの方が亡くなり、身元が分からない方が大勢いらっしゃることを知りました。

二日目には、「おかあさんの被爆ピアノ」を視聴しました。被爆ピアノを預かり、修理して、演奏会にピアノを運ぶという活動を初めて知り、このような活動で平和を呼びかけることもできることが分かりました。また、被爆者だけでなく、被爆二世、三世にも苦しみがあることを知りました。午後の自由行動では、本川小学校平和資料館へ行きました。平和記念公園から相生橋を渡って

すぐのところにある、原爆で被害を受けた校舎の一部がそのまま残る資料館です。たった一人生き残った児童の居森清子さんについての展示が心に残りました。家族全員を失い、辛く苦しい思いをし、原爆による病気がありながらも、生涯、証言活動をされていたそうです。

私たちの日常は、あたりまえのように感じ、過ぎ去ってしまうものと思いがちですが、日本が戦争をすることなく80年暮らして来られたのは、戦後、戦争は二度と起こしてはいけない、平和な世界を目指すのだと生きてこられた方々のおかげなのだ、広島での二日間を通して、思いを新たにしました。

碑めぐりで解説してくださった方が、平和のためにできることは、相手を想って想像することだとお話してくださいました。一人ひとりが、相手を尊重して思いを巡らせることができれば、争いは避けられると思います。私たち個人の力は微力ですが、相手のことを想像する力を鍛えること、そして今回学んだこと、感じたことを身近な人に伝えていくことで、戦争、核兵器のない平和な世界に向かっていきたいと思えます。

最後に、貴重な体験の機会を提供してくださったパルシステム埼玉の皆さま、当日引率してくださった事務局職員、理事の方々に感謝申し上げます。

私は今回初めて広島に行って、広島平和資料館のたくさんの展示を見たり、原爆で亡くなった方々をなぐさめる記念碑をめぐったりして、原爆に対する理解を、よりいっそう深めることができました。

他にも、原爆ドームや、当時のまま資料館として使われている本川小学校の展示など、いたるところに原爆の傷あとを見つけました。

また、被爆者の方の証言も聞くことができ、体験したからこそ言えることや、8月6日のことだけでなく、その後のことも分かりやすくていねいにお話してくださいました。

これらのことを通して、原爆のことを知るだけでなく、人々の暮らしや気持ちについて知ることができました。これからは、私がまわりの人たちに原爆のことを伝えていくことが大切だと思っています。

M.Hさん（11歳）